

日本性科学会 ニュース

第35巻 第4号

平成28年（2016年）12月

発行人：大川 玲子 印刷所：(株)絵文社

2017年研修会・学術集会・研究会予告

第11回日本性科学会近畿地区研修会

日 時：2017年2月12日（日）13：00～16：30

場 所：あべのハルカス25F 会議室C・D 天王寺駅、阿部野橋駅、空港バス直結

予定単位：日本性科学会5単位 日本産婦人科学会専門医 大阪医師会受講証明

テ マ：現代における多様な“性”的あり方

プログラム：講演1「ドメスティックバイオレンス」

大阪府立大学大学院 教授 山中 京子 先生

講演2「子宮移植の日本の現状」

京都大学大学院 教授 菅沼 信彦 先生

講演3「性同一性障害」

奥野病院 院長 奥野 幸彦 先生

参 加 費：一般 5,000円 学生 1,000円

担当理事：石河 修（大阪市立大学 理事）

連絡先：森村 美奈（大阪市立大学大学院医学研究科 総合医学教育学）TEL 06-6645-3797

第46回セックス・カウンセリング研修会

日 時：2017年6月4日（日）

場 所：東京慈恵会医科大学西新橋校（東京）

*昼休みに2017年度日本性科学会総会を開催致します。

メインテーマ：LGBTの健康をサポートする

第37回日本性科学会学術集会

日 時：2017年10月15日（日）/ 第18回性科学セミナー 2017年10月14日（土）

会 場：大阪府立大学I-siteなんば

〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号 南海なんば第1ビル2・3階

(地下鉄御堂筋線「大国町駅（1番出口）」下車、東へ約450m、徒歩約7分)

TEL 06-7656-0441（代表）

学 会 長：山中 京子（大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類/大学院人間システム科学研究科教授）

症例研究会

日 時：2017年1月25日（水）18：30～20：30

3月30日（木）18：30～20：30

場 所：日本性科学会事務局 東京都文京区本郷3-2-3-4F TEL/FAX 03-3868-3853

*参加希望の方は事務局にお問い合わせください。

WAS 性の健康世界学会

日 時：2017年5月28日～31日 場 所：プラハ（チェコ）

詳細はホームページ <http://www.was.2017.org> をご覧ください。

学会ツアーを日本性科学連合で企画し、近く JSSS HP でお知らせします。

Vol. 35

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

No.
4

TEL・FAX 03-3868-3853

〔症例研究会から〕

精子観察キットのご紹介～TENGA MEN'S LOUPE

株式会社 TENGA 医療・福祉・教育領域担当
中野有沙

今回の研究会では、2016年5月16日発売のTENGA MEN'S LOUPEをご紹介させていただいた。ここでは、質問されることが多い使用方法と弊社が不妊応援グッズを開発したことについて述べる。

TENGA MEN'S LOUPE (TENGA メンズルーペ) とは？

TENGA メンズルーペは、約550倍の拡大レンズを用いることで、スマートフォンで手軽に精子を観察することができるという簡易的なキット（図1・図2）であり、有難いことにすでにいくつかの病院やクリニックでお取り扱いいただいている。



図1 パッケージ(左)、中身(右)

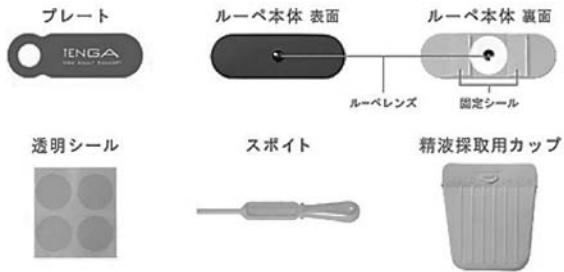


図2 各部名称

この製品の使い方は、①精液の採取（精液採取用カップの中に射精し、5分後に液状化した精液をスティックで採取）→②ルーペとプレートをセット（プレートにプレパラートの代わりとなる透明シールを貼る）→③本体をスマートフォンに設置（ビデオモードを起動し、ルーペのレンズ部分をカメラ中心部に合わせて設置する）→④精液を乗せる（透明シールに微量の精液を垂らす）→⑤ピントを合わせる（単一の光源をカメラに当て、プレートを動かしていく）→⑥精子を観察する、という手順である（図3）。また、使用するコツをより分かりやすくするために、動画で撮影し、YouTubeにも挙げているので、是非ご覧いただきたい*。

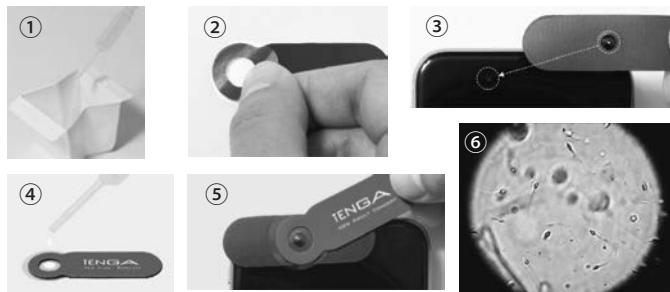


図3 使用手順

アダルトグッズメーカーであるTENGAと妊活応援グッズの関係

それは、小堀善友医師（獨協医科大学越谷病院 泌尿器科医）の「スマートフォンで精子を観察するキットをTENGAで商品化できないだろうか？」という提案から始まった。弊社は、「性を表通りに、誰もが楽しめるものに変えていく」ことをコンセプトとして製品開発を行っており、日頃から性に関する悩みに対して弊社で出来ることがあればお手伝いさせていただくという姿勢をとっている。

今回もそのうちの1つであり、約半数は男性側にあるとされている不妊症に対する意識向上や造精機能障害の早期発見に繋がることを目的としている。そのために、彼女が出来る前に、結婚する前に、今から妊活する前に、自分のカラダを知る第一歩として、自宅でできるTENGA メンズルーペの使用を推奨している。

今後、妊活のためだけでなく、性を明るく楽しく学ぶためにも思春期性教育での使用も視野に入れていただきたい。

最後に

現在、TENGAではセクシュアルウェルネスを目的とした製品の活用方法や新規開発を考案中です。医学的な視点からの活用方法などのご提案、サンプルが欲しいなどのご意見があれば、是非中野までご連絡いただければ幸いです。今後とも医療・教育・福祉の領域において模索しながらも、性に悩む多くの人の心身の健康の為、精進して参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

連絡先（中野）

E-mail : nakano@tenga.co.jp Tel : 03-6684-5811

参考

*『Dr. 小堀の妊活ガイド』(dr-kobori.com)

第36回 日本性科学会学術集会の報告

長野赤十字病院泌尿器科 天野俊康

2016年9月18日（日）に、長野赤十字病院において「第36回日本性科学会学術集会」が開催されました。前日の9月17日（土）の午前には、「GID（性同一障害）学会第5回エキスパート研修会」、さらに午後には例年の如く日本性科学連合「第17回性科学セミナー」も行われました。「第17回性科学セミナー」は、「性科学、メディアに流れる“噂の真相”に迫る」をテーマとして、JFSHM, JSA, JASE, JSSTI, JSSM およびJSSSの各学会から1名ずつの先生が、早乙女智子先生、高波真佐治先生の座長でご発表されました。メディアの影響力は、最近のスマホ、SNSなどの普及に伴い、一層巨大化してきています。もちろん有用な情報が容易に入手できるというメリットはありますが、誤った情報、金銭や犯罪にも繋がりかねない危険なものも多々あります。性科学連合に関与しているわれわれにとって、自分たちの知識を整頓するのみならず、社会全体への啓発という責務もあり、すべての講演が非常に有意義でした。

第1日目の「第17回性科学セミナー」終了後、院内の食堂（クロスカフェ）にて、日本性科学会・性科学セミナー合同懇親会となりました。大川玲子理事長のご挨拶、熊本悦明先生の乾杯ご発声ののち、和やかな雰囲気で時のたつも忘れてしましましたが、翌日の学術集会もあり、阿部輝夫先生の中締めの挨拶でお開きとなりました。



翌9月18日（日）は、開式の辞に続き、一般演題Ⅰ（座長：小堀善友先生）、一般演題Ⅱ（座長：関口由紀先生）と活発な質疑応答が続きました。その後は、シンポジウムⅠとして、「地域活動での思春期教育再考」（座長：高波真佐治先生）が行われ、泌尿器科（今井伸先生）、産婦人科（高橋幸子先生）、養護教諭・性教育研究（白澤章子先生）、助産師（北原光子先生）とそれぞれの立場のエキスパートの先生方から実践的な話題提供がなされました。さらに「泌尿器科医として性科学へ関与できること」と題した会長講演（座長：大川玲子先生）を挟んで午前の部は終了です。

午後は永井敦先生の特別講演「性科学から Men's Health をひも解く」。いつもながらのユーモアと目が釘付けとなる動画の連続で、昼食後の眠気を一切起こすことのないご講演でした。さらに一般演題Ⅲ（白井雅人先生）でも白熱した発表、質疑応答が続きました。

シンポジウムⅡは、「地域に根ざした男性学（アンドロロジー）の診断と治療」（座長：永尾耕一先生）と題しまして、男性学の重要な疾患につき、全国的に第一線でご活躍されている佐々木春明先生、日比初紀先生、辻村晃先生、中塚幹也先生からご講演いただき、特に泌尿器科を専門としない先生方には新鮮で有益なシンポジウムとなったと思います。

本学会最後のセッションは、北村邦夫先生、渡邊智子先生の座長による「ピアカウンセラーが語る性教育が男性に与える変化」でした。かつて厳しいトレーニングを受けてピアカウンセラーとなった経験をもち、現在は性科学とは関係のない領域でご活躍の3名の先生方をパネリストとしてお迎えし、われわれの普段の学術集会とは一味違ったものでした。達人の域にある北村先生の名司会のもとに、ピアカウンセラーを育てる立場の渡邊先生のご苦労や、成長を遂げた3人のピアカウンセラーの方々の一言では言い尽くせない思いがヒシヒシと伝わってきて、感動的なパネルディスカッションとなりました。



今回の会長を務めさせていただくにあたり、泌尿器科医である自分の専門領域を活かす方針とさせていただきました。その結果、シンポジウム、パネルディスカッションなど、男性機能や思春期教育に偏った編成となってしまいました。3連休期間での開催に加え、近くの長野オリンピック会場で行われたコンサートとも重なり、宿泊の確保が難しく、交通の便でもご迷惑をお掛けいたしましたが、全国から100名を超える参加をいただき、心より御礼申し上げます。

次回の本学術集会は、大阪府立大学地域保健学領域教育福祉学類教授の山中京子先生を会長として開催される予定です。では来年、大阪難波でお会いしましょう！

資格認定委員会より

日本性科学会副理事長（認定制度担当） 阿部輝夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定、並びに更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、2016年度の新規資格認定並びに更新資格認定を行いました。厳正なる審査の結果、以下のように更新セックス・カウンセラー1名、セックス・セラピスト1名が認定されました。

更新認定

セックス・カウンセラー 荒木乳根子
セックス・セラピスト 塚田攻

来年度も新規認定、並びに更新認定（2012年資格取得者が該当）の手続きが行われます。申請を希望される方は、日本性科学会雑誌2016 vol.34 no.1掲載の資格認定規定並びに資格更新規定を御熟読の上、ご準備をお願い致します。特に、学術集会・研修会などに御出席の受講証・出席証は、必ず御保管ください。

申請の詳細は、2017年6月発行のニュースに掲載されます。

第7回世界性の健康デー 2016 in 京都報告

世界性の健康デー 2016 実行委員長 岩田歩子

2016年9月4日、第7回世界性の健康デー記念イベントを京都で開催し、無事に終了することができた。7月末より準備を開始し、準備期間が短い中で各所より多大なるご協力をいただき、この場を借りて深く御礼を申し上げたい。

今年のテーマは「性と神話—解き放つ—Sexual health eliminate the myths!」であったため、社会学・医学・災害の3つの視点からプログラムを構成した。

「社会学から語る現代における性と神話」では、演者の小保内さんが大学院生ということもあり、若い参加者からの反響が特に多かった。若い参加者からは「同世代の生態を理解するようなものだった」という自分の周囲の人間関係に当て嵌めて考えているような感想が多くあり、社会人の方からは「自分が化石であることに気づいた」という今の若者の考えに触れることができた等の感想が多くあった。

「コンドームの達人に挑む“ナマ”でSEX」は、泌尿器科の岩室先生と産婦人科の早乙女先生にご講演いただいた。ステディな関係であればセックスにおいてコンドームは必要ないのかどうかという部分に論点を置き、対談形式と参加者からそれについてどう考えるか意見を聞いた。参加型の議論にすることで参加者から次々と質問が挙がり、場にいる全員で問題をシェアすることができた。

「フクシマから見る“性・家族”—災害が引き起こしたオトコとオンナの実態—」では宇野先生の災害支援の現場の話をご講義いただいた。災害地であることで男女の性神話がより顕著に浮き彫りになった現実がよく分かるようだった。実際に福島で支援活動をされている参加者もおられた。

講演終了後にお楽しみ抽選会を行い、抽選で当たった方にはラブグッズをプレゼントした。ラブグッズに縁の無かった方や、自分で買う勇気のなかった方も多く、初めて手に取るラブグッズに会場が色めき立った。ラブグッズの持つアノーマルなイメージを払拭し、誰でもいつでも生活の一部に組み込めるようなものであることを、実際に手に取ることで感じていただければと考える。

今回の参加人数は61名であり、そのうち25名が学生であった。これは特に若い方に向けた講義にすることで、性の健康への意識を高めたいというコンセプトから考えても、良い結果だったのではないかと考える。性について専門家と共に考える機会は多くなく、このような場を通して自分にとって何が大切なことを考えていただけたのであれば幸いである。

おわりに、性の健康デーイベントを通して、性へのイメージは個々人の生活背景で大きく異なり、そのような多様な背景を持つ方が一同に集まることのできる場としてイベントの開催には大きな意義があった。今後、性がよりオープンに語られる社会に変化していくことを願う。